

職場における交通安全指導 Part.17

若年運転者の事故特性と安全指導

若年運転者の事故特性と安全指導

今回は若い運転者を対象とした「若年運転者の事故特性と安全指導」について取り上げました。

1. 若年運転者の気質や行動の特徴

若年運転者は、一般に視力など身体機能が中高年者に比べて優れています。その反面、自我のコントロールや社会性など精神機能面では、未だ発達段階にあるといえます。

そのことが、認知ミスが比較的少なく、判断・操作ミスの多い要因の一つとも考えられます。

若年運転者の主な運転特性は次の通りです。

物の考え方が自己中心的である

自分さえ良ければそれで良いといった物の考え方が強く、常に自分本位に考え行動しがちであるため、周囲に配慮しない運転行動が見られる。

感情的に波が激しく、我慢強さに欠ける

出発前に遅刻や仕事の一寸したミスを注意されると、他の年齢層に比べて感情的な運転につながりやすい。

慣れてくると油断や横着をするようになる

最初の頃は、基本的に忠実な運転をしているが、ある程度仕事や運転に慣れてくると、だんだんと基本動作が面倒に感じ始め、安全確認を省略しても、それがイコール事故にならないと、多少のことは手抜きしても大丈夫と思うようになる。

必要以上にスピードを出したがる

自分の運転能力に対する自信過剰でスピードを出す傾向があり、このことに快感を覚える者も多い。また、自ら危険を冒したがる(リスクテイキ

ング)傾向が強い等、若者特有の心理的特性が運転行動面にマイナス要因として影響を与えている。

以上のような特性は、個々の若年運転者に、そのまま当てはめることはできませんが、「若さ」と「経験不足」からきており、若年運転者の運転行動の一側面を表しているといえます。

現代の若い人は、物が豊かな生活環境に育ったため、ゆったりしている反面、きついことや、厳しい状況などに弱いものです。

指導の場合も頭ごなしに言われると、シュンとなってやる気を失ったり、あまり堅苦しい言い方では反発する場合も見受けられます。

効果的な教育を目指すためには、こうした若年運転者の気質や行動の特徴などを十分踏まえた指導、内容を考えてすすめることがポイントです。

2. 時間に余裕を持たせ早めの出発を徹底する

事例1: A運転者(23歳、男性)は、朝早出出勤にもかかわらず、30分も遅刻して会社を出発し、その遅れを取り戻そうと、途中交通量の少ない片側一車線道路を走行中、ゆっくり走行していた若葉マークの前車を追い越そうと、左カーブにさしかかったところで、加速しながら右にハンドルを切り、センターラインをはみ出したところ、反対車線を直進走行してきた乗用車と正面衝突し、乗用車の運転者に重傷を負わせた。



(指導のポイント)

この事故の直接の原因は、追越禁止区間にもかかわらずA運転者の無理な追越にあることは明らかですが、その時のAの気持ちは先を急ぐあまり、イライラした気分で前車に対し、クラクションを数回鳴らし、進路を自分に譲るようにせかしており、このため若葉マークの前車が速度を落としたカーブ地点で、対向車の存在を確認することもなく、無造作にセンターラインをオーバーしたことです。

この種の事故を防止するために次の点を指導してください。

Aは遅れた時間を取り戻そうと、急ぎの心理に完全に支配されて、先を急ぐあまり焦ってイライラしていたことを考えますと、普段から時間に余裕を持った早めの出発を運転者に徹底する。

むやみやたらにクラクションを鳴らさない。

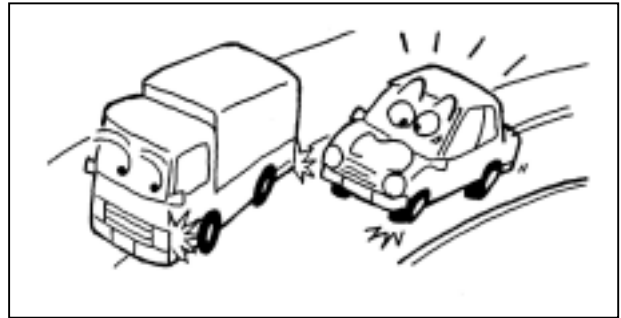
若葉マークのついた車は運転経験が短く、あおられると急ブレーキや急ハンドル操作をする危険性があり、事故に巻き込むことにもなりかねません。不必要なクラクションは厳に慎むように指導する。

カーブ付近での追越しは絶対しない。

片側一車線道路は道幅も狭く、またカーブ付近は見通しも悪いため、正面衝突事故の多発する場所となっています。カーブ付近での追越しは絶対に避け、また自分に都合の良い「だろー運転」はやめ、常に危険を高め評価した「かもしれない運転」を励行させましょう。

3. 安全な車線変更のポイントを指導する

事例2：B運転者(22歳、女性)は片側二車線の自動車専用道路の中央車線を走行中、工事のため前方が渋滞しているのを見て、左車線に進路変更しようと左ウインカーを出しハンドルを左に切ったところ、左後方から走行して来た乗用車がBの後部に衝突し相手運転者が負傷した。



(指導のポイント)

Bは車線変更の際し、ウインカーさえ出せば相手は当然、自分に進路を譲ってくれるものという誤った思い込みがあり、このため何の疑問も持たずに相手車の進路を妨害する形で左にハンドルを切ったために起きるべくして起きた事故といえます。

車線変更も一歩間違えば、大事故となる非常に危険な運転行動であることを認識させることは勿論のこと、車線変更の際して次の点を指導してください。

交通の流れは常に変化しており、このため自車の周囲の走行車両の存在を適確に把握し、余裕を持って車線変更が出来ないときは、まず行動を控える。

ウインカーは早めに出し、周囲の車両に自分のこれからの車線変更する意思を知らせ、相手車が減速しない場合は、相手を先に行かせる。

車線変更が可能な速度と車間距離になったら、ハンドルを滑らかに、ゆっくりと切り、周囲を危険に巻き込む急ハンドルは絶対にしない。

車線変更が完了したらウインカーを切り、そこでホッとしなくて先行車がいれば、追突事故に備え、前車との車間距離を十分にとるようにすると共に後続車が接近していれば追突されないための予防策として、2～3回、軽くポンピングブレーキを踏むようにすることも大事なことです。